

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	59 -	事業名	高齢者日常生活補助事業	担当部課	福祉部長寿課
------	------	-----	-------------	------	--------

基本情報	総合計画	基本方針	3	人がいきいきとつながるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	8	高齢者の安心な暮らしと生きがいを支える	款	3	民生費
		施策の進め方	—		項	1	社会福祉費
	まちづくり 行程表	フラッグ	F2	「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	目	2	老人福祉費
		政策分類	5	障がい者でも要介護でも認知症でも大丈夫	大事業	3	高齢者日常生活補助事業
	その他(関係法令、要綱等)	紙おむつ助成金支給要綱、家族介護慰労金支給事業実施要綱、高齢者等訪問理美容サービス事業実施要綱、高齢者住宅改修事業補助金交付要綱					
事業開始の背景、経緯等	高齢者の健康的な生活を支援し、日常生活の安全と利便の向上を図ることで、その福祉の増進に資することを目的とする。						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 加齢や認知症の進行等により、心身機能が低下した高齢者等に対して、生活環境の改善のための支援を行うことで、健康的な日常生活の維持を図る。						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内在住の満65歳以上の市民等						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 高齢者等が、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けることができるようにする。						
	事業を構成する事務事業	① 紙おむつ助成事業	改善・見直し	④ 高齢者住宅改修事業	現状維持			
	② 家族介護慰労金支給事業	改善・見直し	⑤					
	③ 訪問理美容サービス事業	改善・見直し	⑥					

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	予算 決算			7,123 9,313	8,939 10,296	9,391 8,347
人件費(B)	千円	決算			716	3,055	3,933	
総コスト(A)+(B)	千円	決算			10,029	13,351	12,280	

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 事業利用者数	人	目標	185	152	159	166	224
			実績	160	209	183	176	
	B 補助金支給件数	件	目標	30	7	8	10	10
			実績	5	9	15	8	
	C		目標					
実績								
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
B 長久手市第7次高齢者福祉計画及び第6期介護保険事業計画により目標値を設定。								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 近隣市町においても同様のサービスが提供されている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 概ね目標値を上回っており、着実に高齢者等の生活の支援を行えている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 今後の急速な高齢化に伴い、現行制度では近い将来に財源不足になることが予測されるため、介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の導入に伴い事業の見直しが必要と考えられる。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 支援を必要としている人に確実な支援ができるよう、制度の周知及び利用方法の改善を進める必要がある。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 次期計画期間を目標に対象要件の見直し、補助事業の統廃合により、交付申請手続きの簡易化を図り、利用者の利便性を図る。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者日常生活補助事業									
番号	①	事務事業名	紙おむつ助成事業	款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	2
事務事業の期間	事務事業開始年度			平成12年度			終了（予定）年度						-

1. 事務事業の目的

対象・手段	<p>(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)</p> <p>【対象者】常時、紙おむつが必要な次のいずれにも該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要介護2以上の方 ・介護保険施設に入所していない方 ・本人の所得が200万円未満の方 <p>【内容】紙おむつ、尿取りパット、使い捨て手袋等の購入金額の9割、年度上限5万円までを助成する。</p>
意図	<p>(対象をどのような状態にしたいか)</p> <p>介護者の経済的な負担が軽減され、高齢者等も衛生的な生活を送ることができる。</p>

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		4,635	5,551	6,080	6,135
		決算		6,370	5,856	5,729	
＜事業費の主な内訳（当該事業年度）＞							
① 紙おむつ支給費						5,729	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業利用者数	人	目標	160	125	130	135	192
		実績	138	183	162	154	
		目標					
		実績					
＜備考：活動の概要（当該事業年度）＞							
高齢者を在宅介護している家族に対し、紙おむつ等の購入にかかる費用の一部を助成した。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

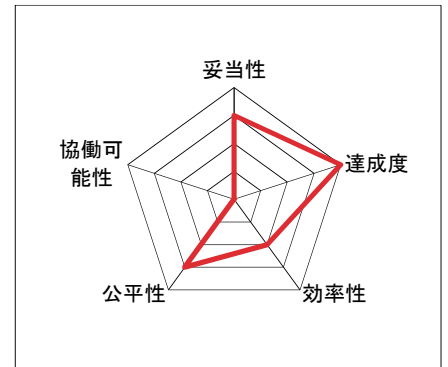
<p>(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)</p> <p>急激な高齢化に伴い利用者数も急増しており、支給事務の簡略化が求められる。</p>

5. 前年度からの改善状況

<p>＜参考：前年度の事務事業評価のコメント＞</p> <p>利用対象者の補助割合の減少・市の支出負担の増加がない方法で、市指定薬局での購入補助ではなく業者委託とする等、利用者と市双方においてより効率的な方法を検討したい。</p>
<p>(何をどのような状態に改善したのか)</p> <p>改善なし</p>

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	2
公平性	3
協働可能性	-



【アピールポイント】

<p>(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)</p> <p>目標値を大きく超え、介護者のニーズに対応できており、経済的な負担軽減につながっている。</p>

【ウイークポイント】

<p>(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定薬局の協力が必要である。 ・毎年度利用申請が必要であり、利用者の手間及び市の事務量が多い。

7. 今後の方向性

改善・見直し

<p>【コメント】</p> <p>(改善の方法、今後の具体的展開など)</p> <p>事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者及び市の事務手続等の負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。</p>

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者日常生活補助事業										
番号	②	事務事業名	家族介護慰労金支給事業	款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	3	
事務事業の期間	事務事業開始年度			平成13年度			終了（予定）年度							-

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】要介護4又は5の高齢者を過去1年以上在宅で介護している家族介護者で、世帯構成員の主たる生計中心者が市民税非課税者であり、且つ、要介護認定を受けた被保険者が、介護期間において法第40条に規定する介護給付を1年間受給していない方 【内容】年に1回100,000円の慰労金を支給する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 介護者の精神的かつ経済的負担を軽減する。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		100 0	100 0	100 0	100
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①							千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業利用者数	人	目標 実績	1 0	1 0	1 0	1 0	1
		目標 実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
年に1回100,000円の慰労金を支給する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

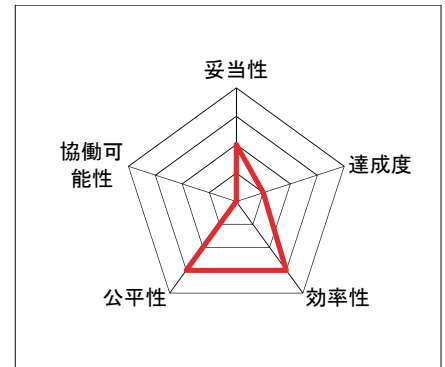
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 介護サービスの多様化、充実により、要介護4以上の方を在宅介護しながら介護サービスを利用しない方は稀で、事業実績がない状況が続いている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 事業の妥当性を再度見直し、他市町の状況を参考にしつつ、事業廃止も含めた検討が必要である。
(何をどのような状態に改善したのか) 利用者が分かりやすいよう要綱・ホームページ・福祉ガイドの記載の見直しを行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	2
達成度	1
効率性	3
公平性	3
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 介護サービスを利用しないで介護を行う介護者の精神的、経済的な負担軽減につながる。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 平成22年以降支給実績がないため、事業のあり方の見直し、検討が必要。
--

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 介護サービス、介護保険料等の介護保険制度との連携を図りながら、事業廃止を含めた検討をしていくことが必要である。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者日常生活補助事業									
番号	③	事務事業名	訪問理美容サービス事業	款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	4
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成12年度		終了（予定）年度		-						

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 【対象者】 ・要介護3以上の寝たきり状態又は認知症の方 ・身体障がい者手帳1級（内部疾患障がい者を除く。）の方 【内容】 1回につき3,000円を助成（年間6回以内）
	(対象をどのような状態にしたいか) 自力で理美容に行くことができない高齢者及び重度身体障がい者（児）が衛生的な生活を送ることができるようにする。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算 決算		288 211	288 217	211 219	312
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 訪問理美容サービス支給費						219	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業利用者数	人	目標	24	26	28	30	31
		実績	22	26	21	22	
		目標					
		実績					

<備考：活動の概要（当該事業年度）>
寝たきり状態の高齢者及び障がい者に対して、在宅理美容サービス費用を1回につき3,000円、年間最大18,000円助成する。

4. 事務事業を取り巻く環境変化

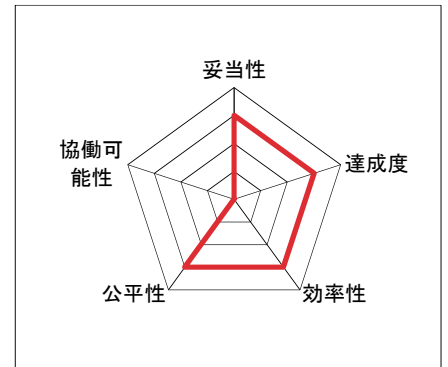
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 利用者数は、ほぼ横ばい傾向である。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント> 広報等で周知し、高齢者等の経済的負担を軽減するため、今後も事業を継続する。 交付決定者に対しても、請求忘れのないように周知などを検討する。
(何をどのような状態に改善したのか) 改善なし

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど) 毎年度、一定の利用はあり、利用者及び介護者の負担軽減につながっている。
--

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど) 交付申請者数に対して、利用請求者の割合が少ないため、実際に利用しなかった、請求を忘れていた可能性が考えられる。

7. 今後の方向性

改善・見直し

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など) 事業の利用方法や補助金の支払方法について、利用者及び市の事務手続などの負担が軽減できるよう、効率的な方法を検討したい。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		高齢者日常生活補助事業									
番号	④	事務事業名	高齢者住宅改修事業	款	3	項	1	目	2	大事業	3	中事業	5
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成16年度	終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	<p>【対象者】次のいずれにも該当する方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・65歳以上の方 ・改修する住宅に住居登録されている方 ・市民税非課税世帯 <p>【内容】手すりの取り付け、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に全額補助する。</p>
意図	(対象をどのような状態にしたいか)
	高齢者が、安全に安心して快適な生活を送ることができる。

2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		2,100	3,000	3,000	3,000
		決算		2,732	4,223	2,399	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
①		高齢者住宅改修事業補助金				2,399	千円
②							千円
③							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
補助金支給件数	件	目標	30	7	8	10	10
		実績	5	9	15	8	
		目標					
		実績					
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
手すりの取り付け、段差解消等の住宅改修費用を30万円を限度に全額補助する。							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

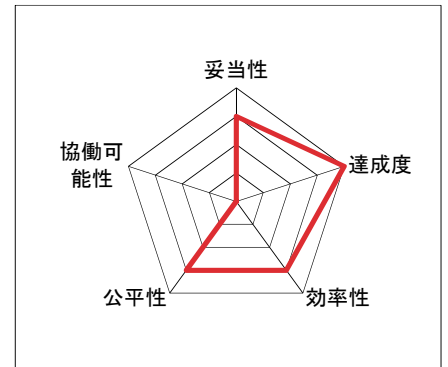
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
急速な高齢化、核家族化によって、バリアフリー化などの暮らしやすい住宅に改修する需要が高まっている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
防災意識の向上に伴い申請件数も増加傾向にあり、高齢者の経済的負担を軽減するため、今後も継続しつつ、交付件数の拡大に向けた財源確保、要件の見直し等を検討する。
(何をどのような状態に改善したのか)
平成29年度から、利用実績の極めて少ない「日常生活用具給付事業」の対象である電磁調理器への変更も当該事業の対象とすることで、利用者の申請しやすい制度とした。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	3
公平性	3
協働可能性	-



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
近年は、当初予算額を大幅に上回る交付申請があり、高齢化による住宅改修の必要性が高まっている。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
1件当たりの補助額が大きく、申請増加に伴う財政負担が大きい。

7. 今後の方向性

現状維持

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
高齢者が住み慣れた自宅で生活できるように、今後も継続しながら、1件あたりの補助額が大きいため、財源確保や支給条件の見直しなどをしていく。